



＝令和6年度竜王小学校だより＝

# 竜の子

令和6年4月19日

No. 1

校長 松井 渉

## 桜咲く中 児童322名のスタート！

今年は何年かぶりに、桜の花が満開の中、4月5日に入学式を、4月8日に始業式を行いました。新たに47名の1年生を迎え、令和6年度は全校児童322名でのスタートとなりました。2週間あまりが過ぎた現在、子どもたちは毎日の学校生活を生き生きと過ごしています。

さて、昨年度末の人事異動で、11名の教職員が竜王小学校に赴任しました。新たな気持ちで、総勢45名の教職員が竜王小学校の教育の充実のために一丸となって頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします。

### ピッカピカの1年生！ ～入学式～

4月5日（金）、新入生47名を迎え入学式が行われました。ご家族の皆様、お子さんのご入学おめでとございました。新入生は、緊張しながらも担任からの呼名にしっかりと返事ができ、たいへん立派でした。そして、私の式辞の時も、「ありがとうございます。」「はい！」と答えてくれ、とても嬉しかったです。

また、6年生が児童代表として式に参加し、綺麗な歌声で歌のプレゼントをしたり、学校の様子を呼びかけで伝えたり、工夫をして新入生を迎えてくれました。式辞の中で「6年生の皆さん、登下校や学校生活で困っている様子を見たら、声をかけてあげてください。」と呼びかけると、（新入生よりも低い声で）「はい！」と返事をしてくれました。私が式辞で何を話すかは誰にも伝えておらず、6年生担任とも相談をしていなかったのに、6年生のこの返事は完全にアドリブでした。私は、とても感動しました。この6年生ならば、竜王小学校を任せられると思いました。新入生には、早く学校に慣れて、そうした最上級生がいる竜王小学校を大好きになってほしいです。



頼もしい6年生でした！



ご入学

おめでとうございます！



### 笑顔がたくさん！ ～始業式・新任式～

令和6年度がいよいよ始まりました。年度末・年度始めの間、子どもたちの声が聞こえず寂しかった校舎も子どもたちの笑顔が戻り、賑やかになりました。

新しい人との出会いを通して、人は大きく成長をしていきます。子どもたちも様々な人との出会いの中から、多くのことを学んでいきます。少しの緊張感と新たなスタートへ向けての心構えを多くの子どもたちから感じました。新しいステージで多くの経験を積みながら成長していくことでしょう。

どんな先生がいるのか

子どもたちは興味津々でした。

## 令和6年度 学校経営の基本的な考え

学校教育目標である「明るく元気な竜の子の育成」の実現を目指し、4月当初に校長から学校経営の基本的な考えを提示し、職員と確認をしました。

具体的には「笑顔があふれ、豊かな心が育つ、温かい学校づくり」「わかる・おもしろい授業が展開できる、楽しい学校づくり」「健康でたくましい体が育つ、健全な学校づくり」の3本柱により一層魅力的な学校づくりを進めていきます。また、竜王小学校は、本年度からコミュニティ・スクールとなります。コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置した学校のことです。コミュニティ・スクールとなることで、地域の皆様に学校運営に参画していただき、地域とともに子どもたちを育てていくことを目指していくことになります。保護者の皆様におかれましても、子どもたちの活動をますます充実させることができますよう、学校での教育活動に、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 〔学校教育目標〕

明るく元気な竜（たつ）の子の育成

「た」…… 助け合う子ども（情）

「つ」…… 強い心の子ども（意）

「の」…… 伸びゆく体の子ども（体）

「こ」…… 根気よく学ぶ子ども（知）

## 手を取り合って ～共通対応が子どもを育てる～

小学校での確実な学習習得には、子どもたちが6年間安定した学級・家庭状況の中で学習に向き合うことが必要です。ルールやマナーが守られ、かつ温かな人間関係に支えられた安定した状態を維持し続けることが大切です。学校全体が良い状態で安定している学校は、「教師集団が持つ価値観と対応がそろっている」と言われています。これには、ある指導において、教師によって大切に思っている度合いが違ったり、教師によってまちまちな対応をしていたりという学校では、子どもたちへのルールが定着されにくいということが影響していることが考えられます。

学校では、教師の価値観と対応をそろえる（共通認識と共通対応）努力をしています。教師の対応は、そろっているようでいて意外とそろっていないこともあります。子どもは、それを敏感に感じ取って、「あの先生は厳しいから、ちゃんとしよう。」とか「〇〇先生は、いいって言ったよ。」という反応を示します。指導の基準が曖昧であると、弱い指導のところにひずみが出てきてしまいます。また、子どもは「なぜ、いけないのか。」を考えるよりも、教師の顔色を見て行動するようになってしまいます。これでは、学校全体にルールやマナーは定着しません。教師の対応をできるだけそろえることで、全校の子どもたちの心に「こういう時は、こういう行動をとるのがよいのだ。」という、本校の一貫した判断基準、行動基準を育てることになります。「学校がもつ雰囲気とか伝統が児童を育てる。」というのは、実は共通の判断基準、行動基準を育てることなのです。学校内の児童が共通の行動様式を身に付けた結果として、「竜王小学校の児童は、あいさつができるね。」とか「竜王小学校の児童は静かに話を聞くね。」という学校の雰囲気がつくられていきます。

このことは、家庭においても同じことが言えます。学校と家庭両者の価値観と対応がそろっていることで、子どもたちも穏やかな気持ちで毎日を過ごすことができます。例えば、保護者と担任と一緒に子どもへの接し方や支援の方法を考えることで、保護者との共通認識のもと支援を進めることができるようになります。保護者との協力関係が得られなければ、検討した支援が子どもたちの生活の充実や今後の成長に結びつかなくなる可能性もあります。万が一、学校と家庭のどちらかの思いや考えが先行し、それぞれの思いや願いを受け止めることができない状況になった場合、子どもたちの状況や対応方法について、お互いが情報交換するとともに、協力関係を築けない理由を考えてみる必要があります。

子どもたちの健やかな成長のために、学校側でも必要に応じて保護者の皆様と連絡を取らせていただくことがあります。逆に、保護者の皆様も、疑問や質問がございましたら、遠慮せずに学校に連絡をお願いします。

竜王小らしく、学校・家庭。地域で手を取り合って、子どもたちの教育に携わっていきましょう。